

第2章 「東南アジア青年の船」青年会議

1 日程

月日	時間 (日本時間)	活動内容
2022年 11月13日 (日)	14:00-14:45	開会式 ・ 小倉将信内閣府特命担当大臣挨拶 ・ 内閣府担当者、一般財団法人青少年国際交流推進センター担当者紹介 ・ 各国PY紹介 ・ ファシリテーター紹介 ・ 令和4年度「東南アジア青年の船」青年会議説明 ・ ピア・ラーニングセッション紹介
	14:45-15:45	基調講演 講演者：深作光輝ヘスス（第18回「世界青年の船」事業 日本船参加青年、第46回 SSEAYPファシリテーター、令和2年度SSEAYP未来会議ファシリテーター）
	16:00-16:45	情報意見交換会（アイスブレイク）
	17:00-18:00	グループ・ディスカッションI（ディスカッション・グループ（DG）別）
2022年 11月20日 (日)	14:00-15:30	ピア・ラーニングセッションI
	15:45-16:15	交流セッション（oVice）
	16:30-18:00	グループ・ディスカッションII（DG別）
2022年 11月27日 (日)	14:00-15:30	ピア・ラーニングセッションII
	15:45-16:15	交流セッション（oVice）
	16:30-18:00	グループ・ディスカッションIII（DG別）
2022年 12月4日 (日)	14:00-15:30	ピア・ラーニングセッションIII
	15:45-16:15	交流セッション（oVice）
	16:30-18:00	グループ・ディスカッションIV（DG別）
2022年 12月11日 (日)	14:00-15:30	地方プログラム
	15:45-16:15	交流セッション（oVice）
	16:30-18:00	グループ・ディスカッションV（DG別）
2022年 12月18日 (日)	14:00-17:00	成果報告会・閉会式 ・ 成果報告（DG別） ・ 越田辰宏内閣府青年国際交流担当室参事官補佐（青年交流第3担当）挨拶
	17:00-18:00	自己評価（DG別）

2 内閣府特命担当大臣挨拶

小倉将信内閣府特命担当大臣

令和4年度「東南アジア青年の船」青年会議の開会に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

「東南アジア青年の船」事業は、日本とASEAN諸国との共同事業として50年近くの長きにわたり継続してきた歴史ある事業です。また、来年は「日本ASEAN友好協力50周年」という節目の年になります。岸田内閣総理大臣は、50周年を機に日ASEAN関係を新たな段階に引き上げる意思を表明しています。

この50年、世界を取り巻く環境には様々な変化がありました。近年では、新型コロナウイルス感染症の世界的流行を経験し、気候変動問題などの地球規模で取り組むべき課題が山積するなど、ASEAN各国の協力関係がより重要な局面に入ってきていると感じています。

このため、次代を担う青年の皆さんの交流を通じて各国の相互理解と友好を深めるとともに、各分野をリードする人材の育成が各国の発展、世界の課題解決にとって不可欠であると考えております。

本日、このような場に、熱意ある青年の皆様が参加され、開会を迎えることができ、私としても喜ばしい限りです。

今年度も昨年度に引き続きオンライン形式での開催としており、「日本ASEAN友好協力50周年を迎える新たな協力の時代に、青年ができること」というテーマを設定し、様々な社会課題の解決に向けたディスカッションを行います。さらに今年度は、深化したオンライン交流とするべく、「バーチャル空間を利用した交流」や「日本の地方青年との交流会」を新たに設けるなど、更に充実したプログラムを準備いたしました。

本会議に積極的に参加していただき、大いに議論いただくことで皆様が更なる成長を遂げられますよう切に祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

令和4年11月13日
開会式

3 基調講演

深作光輝ヘスス

(第18回「世界青年の船」事業 日本参加青年、第46回SSEAYPファシリテーター、令和2年度SSEAYP未来会議ファシリテーター)

これからお話しするのは、あなた方の熱意が未来に見たいものを変えるということです。まず初めに、私自身のことをお話しします。私はSSEAYPの姉妹事業である「世界青年の船」事業（以下「SWY」という。）に参加したことがあります。SWYに参加したのは20歳の時で、それから17年も経ちました。参加青年として参加した後、2019年のSSEAYPでは、「ソフトパワーと青年外交」のファシリテーターになりました。2020年のオンライン事業でも「外交」のファシリテーターとして戻ってきました。そこで皆さんに伝えたい大切なことがいくつかあります。私の話は皆さんの熱意が世界をどのように変えるかということにつきまします。そこには4つの重要な要素があります。

■触れる

1点目は触れることです。どういう意味でしょうか。新しい文化に触れたり、新しい環境にさらされたりする

時は、常にそこから新しい何かを学ぶでしょう。私がこれまでの人生でそれを一番感じたのは、SWYでした。私はもちろん日本人ですが、生まれはペルーです。母がペルー人で、父が日本人です。日本とペルーのハーフとして日本で育ちました。そう聞くと、国際的と思われるかも知れませんが、生まれてからずっと日本で育ってきました。私が初めて国際社会に触れたのはSWYでし



た。これは同室のキャビンメイトとの写真です。オーストラリアとインドの参加青年と一緒に生活しました。

彼らとたくさんのお話を話しました。たくさんのお話と笑いと涙とがありました。国際社会に触れ、自分の人生が変わった瞬間でした。さて、皆さんは今日ここに自分の国を代表して政府から選出され、まさに国際社会にいるわけです。ですから、まずはこの場にいられる皆さん、おめでとうございます。皆さんは大きな影響を持つ一部なのです。

■友達をつくる

次にお話ししたいのは友達をつくることです。少し滑稽で単純だとも思いますが、何か新しいことを始める時に友達は大きな手助けとなります。SWYに参加したとき、12か国が参加していました。左の写真にギリシャとスウェーデンとバーレーンの参加青年と私が写っています。彼らとの友情がどのようにつながっていくか、将来どのように再会するのか想像もできませんでした。この後、もう少し詳しく話したいと思います。

■何が自分を駆り立てるか知る

自分が望む未来に変えるために、何が自分を駆り立てるのか知る必要があります。あなたが打ち込めるものは何ですか？皆さん全員が何かしらの分野で打ち込めるものがあると思います。皆さんの熱意や打ち込めるものについて、この事業中に伝えてほしいと思います。ここで友達をつくることについて少し話を戻します。3、4年前、スウェーデンの外交政策について学びたくなり、スウェーデンに行きました。スウェーデンへ飛び、SWYで知り合ったスウェーデンの友人に連絡を取りました。17年前は若者だったのに、今や国連機関のリーダーとなっていました。彼女は古くからの政治の現場や議会、政策の場に連れていってくれました。友達をつくり、自らを駆り立てるものを知り、熱意を持って動き続ける、これらがつながり、還元されて自分の助けとなることでしょう。

■地元(国)を代表する

もう一つ、大切なことは地元を代表するということです。今、皆さんはASEANと日本の若者としてここにいるのですが、同時に国や地元を代表しています。あなたが話をする時、それはあなた自身の話です。しかし、他の人にとって、それはあなたの国の話となるのです。もし、あなたが土着の地域から来ていて、そのトピックについて話しているのなら、あなたはその地域を代表していることになるのです。皆さんは大使であり、外交官でもあります。これからの数日間は地域社会の代表となります。皆さん一人一人が大使であり、外交官であるということを覚えておいてください。

それでは、私は何者でしょうか。国際交流事業に参加したことは話しましたね。これは最近の私の写真です。マイクを持って、人の前に立っているのが私です。私は日本の国会議員の立候補者として走り回っていました。地元を回り、有権者の方と会い、3か月にわたって選挙活動を行いました。23万5234票を獲得しましたが、負けました。なぜこんなことを話すかというと、自分が持つ熱意や国際交流で世界中の友人から学んだことが、私をここに導いたからです。これは私がどのように立候補者となったのか、日本を代表してここにいるのかという話です。

私の経歴についてお話しします。2009年から2012年の間、私は在アメリカ日本大使館で働いていました。「世界青年の船」から下船した直後、私は大学生で卒業を控えていました。幼い頃から写真家になりたいと思っていました。とにかく写真が大好きでした。ある日、先生のところへ話しに行き、写真家になりたいので美大に行きたいと話しました。先生は私に「どうやって稼いでいくんだ？美術の世界で成功する人は多くないぞ。よく考えた方がいい」と言いました。これは大きな挫折でした。そして、両親にも話しました。すると、「写真？働きながらも写真を撮らなければいいじゃない。趣味として続ければいい。わざわざ勉強することないでしょう」と言いました。しかし、私の想いは写真家になることでした。一瞬の場面を捉えること、世界で起きていることを写真で撮りたいと思っていました。写真を通して、自分の物語を人々に伝えなかったのです。これが私の打ち込めるものですが、打ち砕かれました。私は美大に行かないほうがよいと言われたのです。これは大きな挫折でした。それから、自分が打ち込めるものは何か思いめぐらしました。国際交流の場に触れ、国際的な場所で働きたいと思い、アメリカにある日本国大使館の職員に応募することを決めました。そこで3年間働き、人生で初めて日本とアメリカの関係について深く知ることとなりました。

その後、2017年から2018年の一年間はアメリカの連邦議会の政策スタッフとして働きました。2019年には、日本のNASAといわれるJAXA（宇宙航空研究開発機構）で宇宙の分野に関わりました。そして2020年に東京都知事候補の秘書を務めました。翌年には、埼玉県知事の秘書になりました。埼玉は東京のすぐ北にあり、そこで知事の秘書として従事しました。写真家になれなかったという挫折から、国際社会に携わろうと決めたのです。そして、政治の世界、外交の世界へと足を踏み入れることになったのです。今年、2022年7月28日に参議院選挙に奔走し、23万5234票を得ましたが、落選しました。現在は日本の下院である衆議院に立候補したところです。

皆さん、この写真の人物を知っていると思います。誰ですか？バイデン大統領、バラク・オバマ大統領、クリ

ントン国務長官です。これらは私が撮ったものです。その場にいたのです。私の写真家になりたいという夢は叶いませんでした。写真家にはなれないと言われても、想はずっとありました。自分が好きなものは何かを知っていました。大使館で働いていても私の想いはそこにありました。私はいつも大使の側において、世界で何か起きている瞬間を捉えていました。これは私の業務として記載されていた訳ではないのですが、大使は私が写真を撮るのが得意だといつの間にか知っていて、どこへでもついでくるように言われました。ですから、あなたの熱意は自分の想像しないところでつながっていくことができるのです。

私が国際社会の分野でのみ働いているとお思いかも知れませんが、私が精力を注いでいるのは地域社会です。

2016年に日本の南部、熊本県で起きた大震災では、現地で起こっていることをニュースを見て、東京に居ても立ってもいられませんでした。現地に行かなくては！行きたい！と強く思いました。被災した方々の助けになりたかったのです。震災が起き一週間後に熊本に飛び、ボランティアを始めました。毎週末、月に4回、半年間にわたって、東京から熊本に出向きました。金曜日の夜に東京を発ち、土日にボランティアをして、日曜の夕方に東京に戻ってきていました。自分の時間を自分の地域に、国に捧げていました。

しかし、そうするうちに、もっと自分が知っている分野で自国のために何かしたいという想いが生まれました。その分野とは、国際情勢、日米関係、外交、政策立案でした。これが米国連邦議会に行くきっかけとなりました。連邦議会フェロシップ・プログラムに推薦されました。一緒に働くメンバーは他にもいましたが、米国連邦議会で働くフェローの中で唯一の外国人でした。おそらくニュースでも見たことあるかも知れません。では、下院と上院と何人の議員がいるか知っていますか？下院は435名、上院は100名のメンバーがいます。私は、議会で働くということは知っていましたが、誰の下で働くかは知りませんでした。535名の議員のうち、どのように自分の上司が決まるのか知らなかったのです。しかし、私の想いは自分の国のために何かしたいということにありました。アメリカで働きながらも、日本から来ているということを常に意識していました。そこで、私は日米関係、東南アジア、対アジア関係を扱っている議員の方を探し出しました。その人物とはハワイ州から選出された女性議員のトゥルシー・ギャバード氏で彼女の外交フェローになりました。

これは私の事務所の写真です。全員がアロハをしているのがわかりますか。ワシントンにいても、まさにハワイですね。朝、出勤するとみんながアロハと言って挨拶します。ここには何人かいますが、矢印で指しているメンバーが実際に政策を扱う担当で、私もその一人でした。



これはトゥルシー・ギャバード氏と一緒にいるところです。私は連邦議会での聴取のサポートをしていました。彼女が話すべきことや気を付けること、有権者の方がどのように考えているか等についてのメモを作成して報告書をまとめていました。

■別の視点から

自国のために活動したいと思いつつも、なぜアメリカに行きたかったのでしょうか。それは自分の国を違う視点から、外から見てみたかったのです。皆さんの国も多くの国々と関係があることでしょう。そして、その中でも力や関係を持つ主要国があると思います。多くの人々は他国がどのような国であるかについて話しますが、相手がどのように自分たちを見ているかということについてはあまり知りません。外交関係とは一方通行ではないのです。いつも相互通行なのです。両方について知る必要があります。私は人々が日本、アジア、アジア太平洋地域のことをどのように考えているのか知りたかったのです。これは私が米国連邦議会で働きながらも、自分の国に貢献していたという一例です。私が考えた解決策で、「朝鮮半島における大統領の外交努力支援」でした。アメリカ合衆国だけでなく、アジア諸国、日本においてもどれだけ重要かおわかりいただけると思います。常に自国のために何ができるか、日本を代表して何ができるのかを考えていました。



連邦議会の仕事から帰国した直後、SSEAYPにテーマ「青年外交」のファシリテーターとして参加することを決めました。私が国際交流の場に戻ってきたのは、青年は常に世界を変える重要な鍵を握っているからです。青年は社会を動かす原動力となるのです。SSEAYPに戻って、青年たちと語り合いたかったのです。私たちは船上で一緒に過ごしました。たくさん議論し、意見を交換し、ともに泣き、笑い、楽しい時間を過ごしました。将来、もしできたら、また船に戻りたいです。もしかしたら、皆さんと一緒に船に乗れるかも知れません。

船から戻ってくると、熊本で別の災害が発生しました。洪水です。多くの方が亡くなり、負傷し、自分の家や住み慣れた地域・町を離れなくてはなりません。私はまた、自分に出来ることをしようと現地に行くことを決めました。政策や政治がいかに大きな力を持つか知っています。しかし、人の力、個々人の力も、とても大きな力があります。だから私は被災地に行ったのです。ショベルで掘って泥を取り除くところから始めました。SSEAYPの既参加青年の一人が、私のボランティア活動を知って、「何かお手伝いできますか？どうすれば被災者の助けになれますか？」と尋ねてくれました。既にコロナ禍でしたので、被災地に行くことは出来ませんでした。政府が他の都市に行かないよう要請していました。彼らは心から現地に行きたがっていましたが、それは出来なかったのです。そこで、彼らは話し合って被災した人や現地で活動するボランティアの方にかき氷を送ることにしました。アイデアを出し合って資金調達を始めました。インターネットを通じて多くの資金を得ました。現地にいた私は実際にかき氷を届けました。メディアの方も来て、コロナ禍において、どのように被災した地域の人々を支援することが出来るのかという取材を受けました。これらの発想、この小さなアイデアが確実に変化をもたらしたのです。もしかしたら、「ただのかき氷じゃないか」と思われるかも知れません。しかし、たった一つのかき氷でも、どれだけ心配しているかメッセージを伝えることができるのです。その場に行くことが出来なくても、どれだけ支えようとしているかを伝える、それは被災地の人々には大きな意味を持つのです。私は参加青年たちからこのアイデアが出てきたこ

とを誇らしく思います。そして、皆さんが参加している「東南アジア青年の船」青年会議は、たくさんの友達をつくることのできるのです。世界には多くの問題があります。些細な行動から始めればよいのです。くだらないと思われるかも知れませんが、十分ではないと思うかも知れませんが、でも、何もしないよりはましです。何かを始めて、変化を起こしましょう。

■日本ASEAN友好協力50周年

来年は日本ASEAN友好協力50周年です。これを聞いて、どう思いますか？この50年があなたには見えていますか？ASEANと日本の大きな繋がり、あなた自身は関わっていますか？この中で、実際に関わっている人は多くないと思います。ここで、私の連邦議会の頃の話の一つをお話しします。インド太平洋軍司令官の引退式に参列した時のことです。ハリー・ハリス氏の引退にあたり、世界中の軍関係者が式典に集まりました。私はギャバード氏と一緒にでした。国防長官のマティス氏もいました。この写真も私が撮ったもので、そこにいたのです。私は、ギャバード氏についているだけだと思っていました。その時、日本の防衛大臣がいることに気づきました。大臣のことを存じ上げていたので、「ギャバード議員が防衛大臣とお話ししていただくのはどうだろうか」と思い、大臣のところへ行き、「お久しぶりです。現在、連邦議会でトゥルシー・ギャバード議員の下で働いています。彼女とお話しになりませんか」と言うと、「ええ、是非」とのことだったので、式典の後、二人で話す時間を設けました。ギャバード氏と小野寺防衛大臣が言葉を交わし、お互いの考えを話し合ったのです。それはほんの3分から5分程のわずかな時間でした。ここで私がお伝えしたいメッセージとは何でしょう。式典が行われた会場は真珠湾でした。70年前、日本人や世界中の人で、アメリカ合衆国の代表の一人と日本の防衛大臣が真珠湾で対談をすると、誰が想像できたでしょう。きっかけを作ったのは私ですが、この写真を見た時、あることに気づきました。そう、二人を結びつけたのは私ですが、それを実現させたのは私ではないのです。これは両国と世界の平和と安寧を願う何千人もの人々がそうさせたのです。会ったことのない、名も知れぬ多くの英雄たちがこれを実現させたのです。日本とASEANの友好が始まり50年経ちました。この50周年に皆さん自身を見出すことはないかも知れませんが、今、まさに参加しているのです。この事業は多くの人々、あなたの国の政府関係者、既参加青年、その他たくさんの人々によって成り立ち、確実に世界の何かを変えることができるのです。そう信じて、この事業を継続しているのです。これは投資です。私たちは彼らから投資を受けているのです。名前も顔も知らなくても、彼らの意志、彼らの夢見た繁栄のもと生かされているのです。今、皆さんが参

加しているこの事業では、皆さんが自分の国の代表であり、大使であり、歴史の一部となるのです。

■歴史とあなた

先ほど「歴史とあなた」という話に触れましたが、続きがあります。歴史そのものがあなた自身なのです。あなたは今、歴史の片隅にいます。将来、その歴史を形作るのはあなた自身なのです。皆さんは私たちが見る未来の一部となるのです。どうか覚えておいてください。皆さんが今後50年、60年、70年、100年先の未来の担い手とならなくてはなりません。皆さんの熱意、取り組みが事業のさらなる継続につながるのです。事業の成果は目には見えないかも知れませんが、確かに未来を変えることができるのです。

4つの点についてお話してきました。触れること、既に皆さんは新しいコミュニティに触れていますね。友達をつくること、10年、20年先に関わることになるかも知れません。自分を駆り立てるものは何か知る必要があります。それは難しく思えるかも知れません。自分が情熱を傾けるものがある人も、まだ分からない人もいます。大丈夫です。新しい環境に触れ、友人をつくって、意見を交換することで、自らを動かすもの、打ち込めるものに気づくでしょう。だから、意見を出し合ってください。そして、最も重要なのは、あなたが「自分の国や地域を代表している」ということです。言い換えると、より多くの経験を積み、つながりを築き、熱意を持ち、自分自身を知り、地域社会や国における自分の役割を知るということです。来年は日本ASEAN友好協力50

周年ですが、これをただのタイトルと思ってほしくないのです。これはあなた自身のことです。皆さんが日本とASEANの60周年を、100周年を創造するのです。皆さんは既にその一翼を担っていて、ここにいることを喜び、最大限に活用して事業を楽しんでほしいと思っています。

さて、これは私が4年前に撮った動画です。左側に見える白髪の男性、彼はジョー・バイデン氏です。米国連邦議会で働いていた際、式典に参加する機会がありました。ジョー・バイデン氏をはじめ、国際分野に携わるすべての人がそこにおいて、私はほんの少しだけ彼と話をしました。帰り際に、バイデン氏は会場内の青年に向かってスピーチをしました。「青年の役割とは何ですか？」と話し始めました。彼が話した中で最も印象に残っているのは「歴史の舵を取る、ハンドルを切る」ことでした。何かを少しだけでも変えようとしていても、その変化を感じないかも知れません。しかし、ほんの1度から3度に角度を変えるだけで、その軌道は元あったところから大きく変わります。少しの変化が世界に大きな影響を与えることが出来るのです。今度は私たちが歴史を少し動かす番です。皆さんが参加しているこの事業は他にない大切な機会となるでしょう。皆さんの熱意は必ず望む未来へと変えるでしょう。皆さんがいろんな考えを伝えあっているのを拝見しました。いくつかのセッションを先導する中で、友人やあなた自身に影響を与えることができます。どうぞ楽しみ、最大限に活用してください。ありがとうございました。

4 地方プログラム

1. 地方プログラム概要

(1) 目的

本地方プログラムは、日本各地の青年にASEANの青年との情報・意見交換等を通じて交流する機会を設け、地方在住の青年の異文化対応力や国際的視野の拡大等を図る目的で行う。

(2) 受入県

愛知県、島根県及び熊本県

(3) 日程

令和4年12月11日(日)14:00～15:30

(4) 参加者

愛知県：地方参加青年13名、実行委員16名、
受入県職員数名

島根県：地方参加青年10名、実行委員11名、
受入県職員数名

熊本県：地方参加青年10名、実行委員12名、
受入県職員数名

PYが3県に分かれて参加

(5) 内容

使用言語：英語

実施方法：オンライン（Zoom）

プログラムの基本構成：

- ①受入県からの挨拶及び地域紹介
- ②地方参加青年による自主企画
（地域経済及び文化紹介、社会貢献活動等）
- ③PYと地方参加青年との交流セッション

2. 各県のプログラム内容

受入県名：愛知県

テーマ：食文化から考える地球の未来

時間	内容
14:00-14:15	オープニング ・愛知県からの挨拶 社会活動推進課長 本田靖 ・地域紹介 ・実行委員からスケジュール紹介
14:15-14:35	愛知県の食文化ツアー ・地方参加青年から地域の「食文化」の紹介 ・質疑応答
14:35-15:10	グループに分かれて意見交換 「愛知県の事例から感じた気付きと後世に残していくために私たちができること」
15:10-15:20	ランダムで選んだグループで成果発表
15:20-15:30	クロージング ・参加青年からのコメント ・実行委員長からの挨拶 小川祐希

受入県名：島根県

テーマ：各国の学生や若者の日常生活について

時間	内容
14:00-14:15	オープニング ・島根県からの挨拶 島根県文化国際課長 曾田祐子 ・島根県の地域紹介ビデオ上映 ・実行委員からスケジュール説明
14:15-14:25	グループディスカッション説明と事例紹介 テーマ「各国の学生や若者の日常生活について」 ねらい：各国の学生や若者の興味関心のある事柄や日常生活、将来身に付けておきたいスキルや社会に求められていることなどを共有することで、参加者が自分たちのこれからのキャリアを考えるきっかけや学校生活で活用できるヒントを得る。 ・ねらいと進め方について共有 ・事例発表：実行委員が下のテーマから一例を紹介
14:25-15:15	グループディスカッション 10グループ程度に分かれてブレイクアウトセッションを実施、テーマに基づいて意見交換 島根の若者の事例紹介の後、参加者の感じたことや身近な事例について共有 ①テーマA「学生・若者の地域活動」 ②テーマB「学生のうちに身に付けておきたいスキル・社会に求められること」 ③テーマC「各国の環境問題と学生や若者の活動」 ④テーマD「学生・若者の感じる(抱える)身近な社会課題」
15:15-15:20	振り返り
15:20-15:30	クロージング ・参加青年からコメント ・実行委員代表からの挨拶 小坂田葵

受入県名：熊本県

テーマ：日本の民謡踊りの源流 牛深ハイヤ節をみんなで踊ろう！

時間	内容
14:00-14:15	オープニング ・熊本県からの挨拶 熊本県くらしの安全推進課長 東田智裕 ・地域紹介 ・実行委員からスケジュール説明
14:15-14:40	牛深ハイヤ節の紹介 ①牛深ハイヤ節の説明及び熊本県立牛深高校郷土芸能部の紹介(実行委員) ②牛深高校郷土芸能部による演舞披露(事前撮影動画) ③牛深高校郷土芸能部のレクチャー動画(事前撮影動画)
14:40-15:10	8グループに分かれて「牛深ハイヤ節をみんなで踊ろう！」 ・簡単な自己紹介 ・練習
15:10-15:20	牛深ハイヤ節 総踊り ・音楽に合わせてみんなで踊る
15:20-15:30	クロージング ・参加青年からコメント ・実行委員長からの挨拶 安永愛子

5 交流セッション

(1) 交流セッション概要

本年度の新たな取組みとして、PY間のコミュニケーションを強化し絆を深めるために、oViceを利用した仮想空間を活用し交流セッションが行われた。

また仮想空間は、公式な交流セッション以外の時間もプログラム期間中は常時入室できるものとし、PYの自発的な活動を促進するものとして活用された。

(2) 日程

令和4年11月20日（日） 15:45-16:15

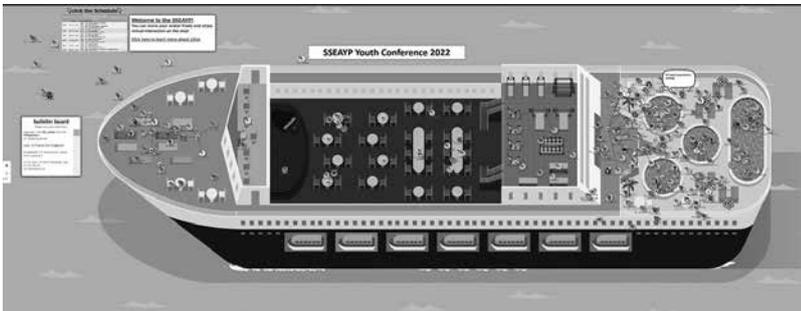
令和4年11月27日（日） 15:45-16:15

令和4年12月4日（日） 15:45-16:15

令和4年12月11日（日） 15:45-16:15

(3) 開催された主な活動

- ・カラオケセッション
- ・お絵かきクイズ大会
- ・日本文化紹介（書道、折り紙）
- ・ファシリテーター質問セッション など



船をデザインしたoViceのプラットフォーム



会議室などを配置したアイランドフロア